

# 福島県富岡周辺海域における産卵期のイシカワシラウオ

鈴木 馨・岩上哲也・遠藤克彦

Studies on the Icefish in Breeding Season on the Coastal Region of  
Tomioka, Fukushima Prefecture  
Kaoru Suzuki, Tetsuya Iwakami, Katsuhiko Endo

## I おらがほま 小良ヶ浜地先の産卵場

### はじめに

「見つかったわ」ひときわ甲高い真喜ちゃん\*<sup>1)</sup>の声に、駆け寄った遠藤さんと私の目に、実体顕微鏡を通してまぎれもない魚卵が……。

イシカワシラウオ、*Salangichthys ishikawae* WAKIYA et TAKAHASI の天然卵の採集を試みてから、すでに4ヶ月近くが経過していた。当初、産卵期は2月下旬～4月上旬と推定して、この時期を中心に、重点的・精力的な調査を組んだ。しかし、卵の採集ができないまま時が経過し、2月上旬から始めた調査も5月の下旬を迎えていた。間一髪、それは予定した最終回の調査であった。

1987年(昭和62年)5月21日、小良ヶ浜前面海域に設定した、調査地点の1個所から採取した底質試料より、39粒のイシカワシラウオ天然卵を採集することができた。

卵は径約1mmで、ソーティングを楽にするために、ローズベンガルで染色したことにより、胚盤、胚体、外卵膜が、見事なまでにピンクに染まり、反転した外卵膜が、きれいな貝殻片・砂利等を抱いている様子や、透明な受精膜をとおして、卵の発生状況をはっきりと観察することができた(写真-1, 2)。このときの



写真-1 採集し得た天然卵



写真-2 反転した外卵膜により粗砂に付着

\*<sup>1)</sup> 豊田真喜子氏: 調査のサンプル処理をお手伝い頂いた。卵の第一の発見者である。